

平成31年度 経営学部 第3年次編入学試験【出題の意図】

〔経営学〕

- 【1】 経営戦略における古典的なツールとして知られる PPM について、コンセプトに関する知識だけではなく、具体的な事例に紐づけて説明することを求めている。
- 【2】 技術経営の領域から、企業の研究開発ないし技術開発において乗り越えるべき4つの障壁に関して正確な理解ができているかを問う。
- 【3】 組織行動論の領域から、変革マネジメントに関する一般的な理解を問う。影響力がある人に対する報酬の提案や、指導者に重要な役割を与えて変革プランに吸収する、変化に対応する時間的余裕を与える、変化に対する不安や恐れを払拭するカウンセリングを行うなど様々な対応が考えられるが（例えば、ロビンス, S. P. (1997)『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社, 401-403 ページ）、抵抗を克服するという一般論ではなく、踏み込んだ方法を理解しようとしているかを問う。

〔会計学〕

- 問1 簿記の基本的な問題で、日商簿記試験では、主として3級の問題レベルを出題している。使用できる勘定科目を限定して、そこから選択させているので、どちらかと言えば、簡単な問題に属すると思う。1から5まで、それぞれ、広告宣伝費と手数料、減価償却と売買費用、貸倒引当金と貸倒損失、手形貸付金の処理、売上と発送費の問題であるが、奇異な取引は一つもない。
- 問2 精算表の穴埋め問題であるが、精算表がどうやって作られるかを知っているか、が問題を解くカギとなる。それが分かっているならば、簡単な問題である。
- 問3 連結財務諸表の作成に際して、支配力基準と持株基準の内容を知っているかどうかを書かせた文章題である。それに、関係会社、関連会社、持分法がどのように関わっているかを確認した問題である。
- 問4 単純総合原価計算の、極めて初心者向けの問題である。

〔マーケティング〕

今回の試験問題は、受験者が、マーケティングの基本的概念を的確に理解するとともに、複数の概念を関連づけたり、概念と具体事例を関連づけたりして説明を行うことができることを確認することを意図している。

[経済学]

- 【1】 企業の行動における短期と長期の概念を問う問題である。
- 【2】 独占企業の行動理論を問う問題である。
- 【3】 経済学における重要な概念を正しく説明できるかを確認する問題である。
- 【4】 クールノー均衡とシュタッケルベルク均衡の理解を問う問題である。

[数学]

1. 行列演算及び線形方程式の理解
2. 関数の微分の理解
3. 最適化問題の解法の理解

[小論文]

経営学では、同じ現象に対して複数の異なる見解（学説または理論）が存在することがあります。また企業を取り巻く利害関係者は多様であるため、どの利害関係者の視点で考えるか、どのような基準を用いるか、によって、同じ経営上の施策でも異なる評価が下される可能性があります。今回は、近年の日本企業にみられる現預金保有の増加を題材として、このような経営学特有の思考が出来るかどうかを問いました。